

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
 毎月1回1日発行
 定価1部15円
 印刷所 田辺印刷株式会社
 上田市原町 TEL1492

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
 発行所 社団法人千曲会
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内
 振替 長野 6243・東京 43341
 電話 上田 1215(代表) 1218(直通)

最近の経済情勢について

信州大学教授 小 泉 所

最近の経済情勢の基調となっている要素には、一方に於ては池田内閣によって打出された所得倍増計画による国民経済の拡大政策があり、他方に於ては貿易自由化による国内企業の国際競争力強化政策があります。前者は政府が自主的に打出したアクティブの政策であり、後者は外国圧力によって止むなく採用された言わばパッシブの政策であります。然し共に日本産業の近代化、高度化を狙っている点に於て軌を同じうしております。ところが日本産業の近代化はある時は行き過ぎ、ある時は停滞を示しましたので、金融引締乃至は緩和の政策をとり、近代化の速度を調整いたしました。従って最近の経済情勢はこれら三つの要素が基調となって、或いは因となり果となって織りなされていると思われまますので、これらの要素に焦点を合せて申し上げます。

所得倍増計画は年率7.2%の経済成長を見込み、凡そ向う10年間(目標年度昭和45年)に国民所得を倍増することを目指

しています。このためには日本経済を付加価値をより多く増殖出来る産業構造に変えて行く、具体的には農業より工業へ、工業に於ても軽工業より重化学工業へ変えて行くことが必要となります。このために設備投資は増加し、企業規模は拡大化して来ました。次に貿易自由化に対処するためには、外国品と太刀打ち出来るだけの品質と価格のものを作らねばなりません。このためにも機械設備の近代化と企業規模の拡大化が必要となって参ります。このような事情のために日本産業に於ては設備投資は著増し、企業規模は拡大化して来ました。然しながらこれを外国と較べれば尚著しく弱小なので最近では企業合同、企業提携等が著しく盛んとなり、特定産業(自動車等)に対しては二重投資の是正、生産分野の調整等を強力に推進めるため(合理化カルテル)特定産業合理化法案

が議会で提出されようとしています。

このように設備投資が増大し企業規模が拡大化して来ると、機械設備に対する需要は旺盛となり、生産財を中心として物価は上って来ると共に、雇人も増大して所得は増加し、従って一般物価も値上りして参ります。こうなると企業は生産物を輸出するよりは国内で売の方が儲けは多くなるから、輸出意欲は減退し、遂に外国技術を中心とした物資の輸入は増加して来ます。このため36年7・8月の候は国際収支は著しく逆潮となり、外貨保有も著減して参りました。

このために36年の夏から所謂トロイカ方式(公定歩合の引上、高率適用制度の適用、準備預金制度の適用)を中心とする金融引締政策がとられるようになりました。このために企業金の繰りは著しく窮屈となって参りました。もともと日本の企業は使用資本の3分の2まで他人資本に依存しているため、金融が引締められれば企業活動は著しく拘束されます。

斯くて設備投資の抑制、滞貨の増大、生産の制限、企業収益力の低下等の不況的徴候が顕現化して来ました。然し国内不況は生産企業の輸出意欲を増大させる結果ともなり、斯くて引締一年後の37年夏頃には国際収支は著しく改善されて、所謂黒字基調となって参りました。又国内不況が永続化すると企業の近代化は停滞して国際競争力は弱体化し、所得倍増計画の達成も不可能となります。このため昨年夏頃から金融政策は180度転換されて、トロイカ方式の緩和のみならず、買オペ、歩積、両建預金の自粛要請等企業活動を刺激する政策がとられるようになりました。斯くて再び活況を取り戻すための地盤が整備されつつあるのが日本経済の現況と言うべきでありましょう。



第2回県展選抜展文部大臣受賞作品

高原のレクリエーション

金井 正一

織 維 学 部 に つ い て 想 う

石 倉 新 十 郎

昇 格 を 迎 え る

元の上田蚕糸専門学校が昇格されて国立信州大学繊維学部となった。この学部の運営方針や学生教養の主旨がどうなっているか知らないが、学部長を始め教職員方は人生の活躍年齢の人達であるから、適切な理念のもとに活躍の歩を進めておられることと推察する。

学部の前身であった専門学校創立当初の一教職員であった私には、以後50余年を経過した間の変遷の蹟が追憶され、老齢らしい感想が浮かぶのである。

旧学校の創立当時は、大日本帝国などと自負していた頃だから、民主時代を迎えて国立大学となった今の繊維学部と比較すれば真に隔世の感がある。昔の官立学校は大学も専門学校も学生教養の主旨は国家本位であつて、国家社会に有用な人材を教養するのが主眼とするところであつた。だから私立学校と性質が違っていたのであるが、いつ頃からとなく社会的需給関係からであろう、実際の卒業生の社会的進出は差違を主眼とするようになり、官立と私立の差別はたいしてなくなったようである。そして之れら官立学府を出た人達の実社会に出てからの活躍の蹟を見れば千差万別で人により様々であつた。

上田蚕糸出身の人達でみれば、昔は現状のような蚕糸業一般が斜陽産業に陥らなかつたときでも、蚕糸関係から離れた他の方面で活躍し、社会的貢献の著しかった人材も少なくなつたのである。総括的にみれば本人の天分能力と変転やむなき境遇の推移と運命によって、社会的貢献の大小様々の結果をもたらしたと言えよう。蚕糸業から全然離れた人でも、また日本を離れて後進国に渡り活動した人でも、大局的にみれば社会的功績は顕著であると言いうるのである。

官 立 学 府 の 特 色

では一般的に他の官立大学や専門学校の出身者はどうかとみれば、特種性の陸海軍大学や士官学校、兵学校は別として、他の一般的学府出身者の進出した社会的方面について見よう。考えの便宜上学術界、実業界及び政治界これらに関連した方面に別けて見るに、官立の主旨の通り国家的に活動し貢献した人は甚だ多かつたであろうが、勿論人によって様々である。学術専門であつた学者達の職務的努力は国家的というよりむしろ学術其のもののためにしたもので、国家奉公の理念によつたものとは考えられないであろう。特殊性を帯びた高等師範学校での教職員は、学術研究より学術を学生に教授するのが主眼と見えるのが、即ち国家的任務遂行であつたと言えよう。また外国語学校も同様に外交官や外語教師養成を主とした所の教職員の努力は国家的であつたと見られよう。然し之れらの学校出身者の中には、生徒教養の任務を離れて、教育行政方面に身をたて社会的活動をした人も少なくなつたのである。稀れには教育界から離れて実業界に身を投じた社会的貢献の著しかった人もあつたのである。

実業界でみると自ら実業実践した者が、銀行会社の経営に當つた者も多く、また実業に関する政治外交方面に進み活躍したものが、総括的に見て之れらの人の実績から推定すれば、其れらの人個人の榮達のために奮励努力したのであつて、出身学校の設立主旨の国家的理念からやつたとは考

えられない。だが結果としては日本の社会的功績は偉大であつたと言えよう。

次に政治界でみると官立の主旨に添わない政府のやりかたであつた。大学卒業した者が十数年たって初めて国務大臣になつたのである。それまでは各省の事務官に留まつたのにすぎず、司法方面でも同様で、司法官候補から出発して判検事に留まり、中々長官に進めなかつたのである。そして衆議院、貴族院議員にすら選出されず、まして枢密院議員などには及びもないことであつた。明治中期以後になつて漸く官立大学出身者が政治界首脳部員になつて活躍しうようになつたのであつた。

学術界以外ではかようにして私立学校出身者と比較して著しい差異は見られなかつたのである。

元来官立学府は大学でも専門学校でも、学生を教養する面では私立と似たものであつたが、官立では教職員の学術的研究に補佐援助があつたのである。各官立学府の教職員のためのこうした援助経費は文部省の全予算中に計上され、行政的に余り干渉を受けず国会の承認を得たのであつた。然し特に国家的重要な研究で多額の経費を要する場合は学府と別に研究所を特設し、其の主任研究者には大学教授が多く兼務したものである。大学での教職員の研究は其の学長との理解のもとに定まり、経費の援助を受けられたのである。然るに専門学校となると、大学とは異なり、研究及び其の研究費支出は一切校長の権限に於て、校長個人の独断で実現したのである。

官 立 学 府 の 運 営

運営面で見れば官立学府と、私立学府はかなりの相異があつた。子弟を入学させる国民の家庭からみれば、官立は修学費が低廉であり、官立は教職員の待遇が一般的に良かったから、優秀な学生が多く集合した傾向があつた。こうした事から官立学府に入学志願者が集中し、従つて競争が激甚を極めた風であつた。そのため優秀の学生が多く官立学府に入学した傾きがあつたのである。だが文学、経済、法律後には農学医学、工学面には私立学府にも優秀の学生が向うようになって来た。

初めて蚕糸専門学校が設けられようとした頃の日本の情勢をみると、生糸の輸出額が総輸出額の30%を占めた程であつたのに、その生産をみれば養蚕は農家の副業であり、製糸は明治初年輸入した機械同様の旧式機械製糸であつたのである。この産業界に高等の学識技能を修得した者を進出させ、将来の振興を図ろうとして、政府も国会も企てた結果、官立の専門学校を建設することになつたのである。当初の考えは広く絹糸に関して生産から加工全般に渡る学術、技術を授ける学生教養の予定であつたのに、いよいよ設置が上田に確定し、校長や職員を採用する段になると、養蚕本位になつてしまい農学方面の人を主とするようになってしまった。従つて養蚕に関しては大学設立のような周到の考えがゆき届いたのに、加工方面については職員採用に注意おろそかになり、甚だ妥当を欠いたことになつたのである。実際でみれば養蚕に関しては蚕児の食糧である桑の栽培技能だけでなく、土壌学肥料学、気象学までを含み、養蚕については蚕種の生産、蚕児飼育の技術だけでなく、蚕体生理学、病理学、遺伝学こ渉

り、参考学科として植物学、昆虫学、絹糸化学までを含み、之れら各々を担当する専門教職員として農大出身者を採用したのである。然るに生糸製糸に関しては生繭購入、乾繭、煮繭、繰糸、生糸検査、保管貯蔵に渉る技能を分担する教職員4名を採用し、撚糸機械及び繻績を分担する職員3名を採用したが、これらの職員は大学出身者ではない。参考学科として機械学、力学、応用化学を分担する職員として工大出身者3名採用したに過ぎなかったのである。そして農大出身教授7人のためには各々に研究室を設けてやり、研究費に校費の過半を以て援助したのに、製糸面での工大出身のためには研究室も設けず、研究費の援助など全然しなかったのである。かような肩派な学統運営振りでも、文部省は校長に反省を撰すこともせず、また業界でも放任して40年余を経過したのである。この間に応用化学担当職員は早く他に転職したので人工絹研究は消え、農学関係職員の研究発表は数々あったが、日本学会に認められたものは一つすらなく、職員自身のための博士論文着度を出なかつたのである。そして其れからの後でも校長の運営振りをみれば、養蚕に直接関係のない絹糸化学の研究設備を増設し、其のための職員を増員し、学校経費の過半を之れに投入したのである。そして其の部の主任教授を次代の校長に推挙して、自ら校長職を辞して校名を改め上田繊維専門学校と称することとなったが、絹糸化学科が増科されただけで学校全体としての内容はやはり養蚕が主であることは何等変革はなかつたのである。

それが時代変って民主時代を迎え、旧校が身格して国立信州大学の繊維学部となったのである。

繊維専門学校と称した時に引退した私は、蚕糸専門学校創立以来の長い期間に変遷した蹟を思い、新たな繊維学部の将来に老叟らしい想いが浮かぶのである。

学部について思う

繊維学部の学術範囲はどうあるべきか、また学生に対し教授する学術範囲はどうあればよいのか心に画かれるのである。まづ人生と繊維の関係をみるに、繊維の種類其の利用が主要であろう。種類でみれば植物性のもの動物性のもの他に人工繊維がある。其のうち自然力による生産で人の利用しうるものを挙げれば、植物性では麻類木棉カポック、パルプなどがあり、動物性では絹類獣毛蜘蛛糸などで、鉱物性では石棉、硝子綿がある。然し日本では地理的制限があつて、大麻家蚕絹、兎毛、石棉、硝子綿位である。人工繊維としてはコロイド繊維である。次ぎに利用加工面でみれば製糸製繻撚糸紡績、機織編組刺繻製網フェルトイニング、プレス製紙など

である。

ここ20年前後の日本絹産産業をみると大肌前後と甚だしい変化があつた。ことに激しいのは木箱産産業で原料棉花は全部輸入であつたが、生産品は内需に応じたばかりでなく、盛んに輸出したのである。其の額は全世界の輸出総額の60%を日本が独占したのである。之れに次いだのは生糸絹織物で日本の総輸出額の過半を占めたのである。それが敗戦と共に一変して辛うじて内需に応ずる程度に崩落したのである。其の他の羊毛産産業麻糸産産業の崩落も現情にまで到達したのである。他方人工絹産産業をみれば之れと逆に戦前はわずかなレイヨン産産業があつたに過ぎなかつたのが、戦後は外国の特許権を得てにわかに勃興し、中には邦人の発明による新絹織生産を興し益々隆盛に向いつつある状態である。

こうした気運にある日本の産産業界に学部卒業生を進出させる学部運営方針は自然定まることであらう。

ここで参考一例として旧蚕糸専門学校卒業生小林政雄君(母校元講師小林清丸氏長男)のことを話したいのである。同君は夭折して今は故人であるが、蚕糸専門学校製繻科を卒業後、直ちに北海道帝国大学工学部生産冶金科に進み、卒業後長野県丸子町の電気関係会社に就職し、現今全国的に広く使用されているビニール電線の発明に関係したのである。従来は被覆電線は構造が複雑で、絶縁を確保するためにゴム、和紙、絹糸、棉糸などを巻きつけ表面は細組にし膠附けたのである。それに代つて裸鋼線に直接ビニールなどの合成樹脂で包囲するだけであるから製作工費が甚だしく低格となり、屋内外の架線も簡単にすむこととなつたのである。だから旧式被覆線は装飾用にだけ使用されるに至つたのである。小林君は工大の電気科出身ではなかつたが、同君がかような発明したわけを考えると、之れは小林君の天分に因るのであらうが、専門学校及び大学での修得による学識が参与したと思われるのである。合成樹脂は人工絹生産に伴い研究が進み繊維生産方面だけでなく他の物資生産に応用され、其のために従来産産業に多大の影響を与えたのが実際であらう。こうした研究が小林君の発明を促したろうと推測されるのである。

繊維学部の各科の内容や講座の学種がどんなであるか知らないが、卒業生の社会的進出の方面は大體繊維関係であらう。それに必要な学術を学生に教授されるのは当然であらうが、専門的基本常識を養う学術面もまた大切であらう、などと考えが浮かぶのである。

(筆者は元上田蚕糸専門学校教授紡織科長)

上 田 繊 維 科 学 振 興 会

(1)研究助成金交付希望者募集

50周年記念事業として発足した上田繊維科学振興会は研究助成金交付希望者を同会則第4条第1項によって次のとおり募集する。

1. 応募者は千曲会の正会員および賛助員(信州大学繊維学部教職員)又はこれらを中核とする団体とする。
2. 応募者は個人または共同研究としある程度の成果を得ているものとする。
3. 応募者は4月15日までに本振興会理事長あて研究課題、目的、計画概要、研究経費を提出する。
4. 研究助成金交付決定は研究助成委員会において選定する。
5. 研究助成金は5月末までに交付する。
6. 研究助成金は4月を以てしたのは助成金の交付決定してから1年を経過し6ヶ月以内はその研究成果を本会に提出しなければならぬ。
7. 助成金成果の概要は千曲会報誌上に公表する。
8. (3)の研究計画概要様式は本会あて申し込めば送付する特に学部外の若い層の研究者もさかんに応募されたい。

(2)振興会賞候補者推薦ご依頼

本会事業である繊維科学振興会賞候補者を募集する。奮って候補者をご推薦下さい。推薦期限5月20日までに千曲会理事長あて提出すること。

上田繊維科学振興会研究表彰規定(抜萃)

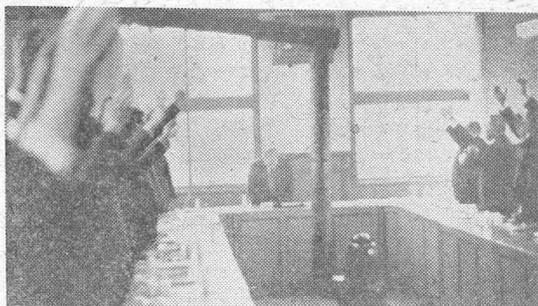
- (1)本会に繊維科学振興会賞を設ける。
- (2)繊維科学振興会賞は、繊維科学およびこれに関連した科学の分野において顕著な功績のあつたものに授与する。
- (3)前項の業績は発表された論文著書または発明考案とする。
- (4)受賞決定者には賞状および賞金を贈る。
- (5)受賞候補者は繊維学部長または千曲会理事長より推薦されたものとする。
- (6)受賞者の選考は受賞選考委員会において行なう。(推薦書様式) 上田繊維科学振興会賞推薦書

| |
|--|
| 候補者氏名 (勤務職名等も) |
| 推薦者氏名 (支会名も) |
| 業績と推薦理由(候補者の略歴参考論文概要等足りなければ別紙に記入して下さい) |

三浦乾太郎先生退職記念品贈呈式

2月26日午後2時より、信州大学繊維学部第一会議室に於て、三浦乾太郎先生をお迎えし、山形大学工学部代表として行方寅次郎先生にはるばる御来学頂き及び信州大学繊維学部関係者多数列席のもとに盛大に退職記念品料贈呈式が行われ、続いて三浦先生のご健康を祝して乾杯が行われ、なごやかな催しであった。

尚先生は66才のご高齢年ら、奥様と共に益々御健勝にて一昨年来上田市材木町156番地に新居を構えられ、春秋には広島県可部女子



短期大学へ御出張講義なされ、又お宅にあっては「織物意匠とその構造」の著書に専念され、その合間には庭造りなどされて余生を楽しんで居られます。

収支決算報告

| | |
|---------------------------|----------|
| 醸金総額 | |
| (賛同者217名) | 203,526円 |
| 募金諸経費 | 17,590円 |
| 差引記念品代 | 185,936円 |
| (現金で贈り記念品をご自分で撰んで頂くことにした) | |

冗 言 漫 語

三 浦 乾 太 郎

停年もいいもの

好きな道を65才までやらせてもらって忝けない。研究と教育の重任を感じるとき、停年を待ち遠しく思ったものである。これでホットした。大学では、停年という語に対する感じ方が源氏鶏太の小説から感じるようなみじめさでなくてすむのが幸いである。やはり停年はいいものだ。

教師冥利

拙き相手をしたことのある卒業生が、職場で喜ばれていることを聞くのはわが事のようにほんとに嬉しい。それは人の持ち味と、ご自身の磨きがそうさせるだろう。これが教師冥利というものか。

素直な学生

繊維学部50周年祭行事の始まる数日前の主任会議の時だったと思う。20名位の学生代表がどやどやと会議室にやって来た。言い分をきくと、行事予定を教官側が一方的に変更し、学生の慰労会を早めることにしたのは納得出来ない。これでは協力出来ない、吾々は全員辞退する、ということであった。成程、これはしまったと思ひ、早速「私は年甲斐もなく、気付かないで悪かった。予定通りにやるように教官方に話すからきげんを直してくれ」と話したら素直に帰ってくれた。他所の学生だったらどうだったろうと思う。

知らぬが仏

ある時の会議に、日曜代替授業をやる原案が出た。反対論は私ひとり、頑固に譲らなかつた。議長も困った様子、その時某教授が、問題の性質上ひとりでも反対があれば強行すべきでないと言った。結局その案は否決された。会議が終ってからのこと、若いある教官が笑いながら、「お蔭であつたの佐渡行が駄目になりました」と某科の一団の旅行計画があつたのを知らずに、私はいつもの調子で言いたいことを言ってしまった。知っていたらさぞ後味が悪かつたろう。知らぬが仏とはこのことか。

晴耕雨書

私にはとかく一方に夢中になる癖がある。農耕をやり出すと少し位の雨でもやってしまう。夜明けが待ち遠くて仕方がない。

原稿を書き出すと、また同じことで兎角終日座りがちになる。そのせいか、いつも自慢にしていた食事のうまさも、近頃さっぱり出ない。医師に診てもらったら、気は若くても年

は年だ、若い時の真似などやめて、適当な運動を挿入した生活をやるべきだとのことだった。もうすっかり癒って食事もうまくなったが、やはり晴耕雨書(読)とか悠々自適とかいうことが良いらしい。

在職中には極端な思想や行動に対処して一部の学生と渡り合ったこともある。事柄は違ふが、年甲斐もなく、こんな極端なことをして「人を教えて自らは……」の恥をかく仕末である。

ただただ恐縮

信大と山大的の教官有志および両大学の卒業生有志の皆さまの発起で、私のために退職記念会を催され、去る2月26日信大側多数の皆さまおよび山大から代表として懇々お出でになった行方先生列席の名誉ある席上で、217名のご厚意の賜なる多額の記念品料を頂いたことは誠に忝く、ただただ恐縮するのみである。月給をもらって学生には不手際なお相手をしたり、教官方には色々ご指導に預つたのに、こんなにしていたら、皆さまのご厚意を身に沁みて有難く感じた。

報恩感謝

私の小学校時代の恩師を始め、恩人が多いが、90才と80才に近い方が6~7人ある。そのことをいつも心にかけながら失礼して申し訳ない。それらの方は揃いも揃って立派な人柄、つまり生きさま方である。今こそ報恩感謝の微意を表わす好機で、この賜物の幾分なりとお裾分けして喜んでいただきたいと思います、その満足感に胸がふくらむ思ひである。これも皆さまのご厚意に報いる一つの道でもあり、感謝している。

集中講義と教材

私は信大退職と同時に広島県可部町に新設された私立の可部女子短期大学教授ということになったが、上田に常任し、毎年4月と10月の2回に、それぞれ30時間程度集中講義をする約束で37年度分はすでに終つた。30時間を4~5日でやるには、1日8時間授業もやむを得ないが、相手が若くて美しい女子学生のせい気分はよく疲れも感じない。私の担当は被服材料学だから教材の織物標本が必要で、卒業生諸君にご協力を願つたが、お蔭で予想以上に材料が多く集まつたので教授上たいへん重宝している。この分では相当な標本室も出来そうに思ひ喜んで居る。この紙上をかりて厚くお礼を申し上げたい。

さ ろ ん

小沢丘先生の近況

旧職員剣道範士九段小沢先生から萩原理事長あてご活躍の近況を寄せられました。

前略益々御健祥の事と御慶び申し上げます。

本年10月28日山口県萩市に於て国体剣道が行われます。其の強化訓練が山口県主催で当地山口市体育館で8・9の両日行われました。私は講師として参りました。因らず松下技塾を見学する機会を得ました。維新回天の偉業の一翼を担った、高杉晋作、木戸孝允、品川弥次郎、伊藤博文、井上馨、乃木希典と言った傑士が若冠23才の松蔭の門から輩出した事は驚嘆の限りです。今も残る三間四間の御粗末な技塾は我々に大きな感激を与えています。針塚長太郎先生を中心に、和田仙太郎、石倉新十郎、岡徳次郎、佐藤春太郎、原田親雄と言った先生が、厳寒の1月寒稽古に尺余の雪を踏んで薄暗い道場に集る学生と取組んだ姿、これこそは千曲会員が総ゆる方面で大活躍をしている上田精神の源流ではないでしょうか。大塚学園に学ぶ大正9年頃、恩師嘉納治五郎先生は「教育の事天下はより偉なるはなし其の化育遠く百世に及ぶ云々」と私共学生を鞭撻されましたが、今、その当時を思い起します。遙かに母校の発展を祈ります。同封甚だ僅少失礼ですが、貧者の一灯として伊藤学長先生記念品代に入れて頂けたら幸甚の至りに存じます。

(38.2.9. 山口市油田鳳荘にて)

蚕30期第2回懇親会開く

去る2月8日(金)午後5時から、前回と同じく東京、平河町の全国町村会館に於て、蚕30回同級会を開催した。2回目になるが、この日は丁度、農林省主催の蚕品種審議会が開かれたので、各地で、蚕種の試験研究に没頭されている諸

兄が、多数上京されるというので、その労をねぎらい、旧友を語るという念願で急遽この会を持った次第である。

そのため連絡通知範囲も出席に無理を来たさない在京者とその近辺にしぼったのであるが、別所温泉上松屋館主倉沢秀一氏が、わざわざ上京されて、一段の楽しさを加えたことは今回の成果でもあった。貴重な紙面であるから、懇談の様様はお互いの推察におまかせすることに致しますが、要約すると、皆よいお父さんで、白髪も日増に目立つ年頃となり、このような会合を非常に郷愁を持っていることが感じ取れた次第である。当日の申し合せとして(1)情勢により随事会合の機会を持つ。(2)年一回必ず東京で開催する。(3)家族写真を塩入(茨城県結城市第一高等学校)宛に送ること。(4)産蚕に限らず在京同期会を開く等であるが、当日の出席者とその家族構成を併記し、懇親会の報告に致したい。

鹿間4人構成 男1人(小5年) 女人1人(小3年); 倉沢5人 男3人(小6年・4年・1年), 石井(耕)4人 男2人(中3年・小1年), 塩入4人 男1人 女2人(中1年), 田中4人 男1人(小6年) 女1人(小3年) 小沢3人 男1人(小6年), 緑川4人 男2人(中2年・小5年), 横開4人 女2人(中1年・小5年), 中島3人 女1人(小6年);
なお小池、佐藤、からは止むを得ざる事情で欠席するとの連絡を頂いたので附記しておく。(中島記)

上小支会総会

残雪なお消えやらず白雪に包まれた上田公園内富貴で2月23日総会が開かれた。

小泉学部長、野口、山口教授も出席され庶務、会計報告、役員改選、代議員選出等を行ったが席上、小泉学部長から新設される繊維化学工学科について説明あ

り、山口教授から本部を代表して挨拶があった。

本会の運営と信大教養部統合問題については活潑な意見の交換がなされ、特に香山清和氏からは上小支会として統合に絶対反対すべきであると強い意見が出され、これに対し小泉学部長は学校の立場から説明、野口教授は学生に対しての立場で論議、結論に至らずいま暫らく情勢をみることとなった。

なお母校火災復興資金募集については上小支会としては昨年各幹事をお願いして募金成績は向上しているが支会の目標581千円にはなお一段の努力を要するわけで支会としては個人別拠出額は制限することなく一口以上を一人でも多く拠出願うことを望んでいる。また会費納入も本会運営上未納者は是非お願いしたい。

総会終了後懇親会に入り、母袋忠右衛門氏の県議田口玲氏の上田市議出馬が披露され、次いで和田、母袋前正副支会長に対し蒲生先生の宝生流による美声の謡のうちに当支会のために御苦勞願った感謝の盃が行われ、和氣堂に満つるうちに上小支会の前途を祝して万才を三唱最後に新支会長箱山住夫氏のタクトにより母校校歌を斉唱し極めて盛会であった。

出席者は28名であったが若い人達ももっと出席して大いに自分を売りこんでむらいたいという声があったことを特につけ加えておく。

新役員等は次のとおりである。

- 支会長 箱山住夫(蚕26)
- 副支会長 桜井隆夫、宮下力、細川俊雄
- 代議員 島田林助、箱山住夫、桜井隆夫、細川俊雄、西沢正一、笠原義人、青島二郎、窪田作水、倉沢秀一、宮下力

(細川記)

特許・実用新案・意匠・商標

出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤第一ビル四階
東京(591) - 0764・0765

弁理士 浜 香 三
弁護士 中 猪 之 助

遂に完成乞購入申込

針塚長太郎先生—その伝記と追想記

刷上り300頁 追想記100余名執筆 実費頒価 1部1000円
「針塚長太郎先生—その伝記と追想記」遂に完成しました。

これは、ひとり一世の師表針塚先生を伝えるのみでなく、母校のほこるべき歴史を伝えるものです。潑刺たる息吹が一卷をおおっています。母校が新しい時代を迎えようとするとき、とくに若い同窓生の愛読をおすすめいたします。

(千曲会振替口座東京43341番を御利用下さい)

信州大学繊維学部千曲会館内
針塚先生追想録刊行委員会

母 校 ニ ュ ー ス

学 内 人 事

○2月1日文部省発令により古平福紀、加藤泰正両講師は信州大学(繊維学部)助教に昇任された。

教 養 統 合 問 題 再 燃

大学として発足以来教養統合は実現されず現在に至っている。が最近又この問題が信州大学として取上げられ本学でも真剣に検討しているが結論は出ていない。今迄統合を阻んだ最大の原因は長野県の地形的なものであった様だ。何れにしても優秀な高級技術者や研究者を養成すると云う点では一致している。

38年度入学志願者 本年度入学志願者は次の通り。

| 募集人員 | 応募人員 | 倍率 | |
|------------------|--------------|----------------|------------|
| 繊維工業化学 (化学工学) | 45名 (40名) | 138名 (217名) | 3.1 5.3 |
| 繊維機械学 | 50 | 145 | 2.9 |
| 紡織工学 | 50 | 66 | 1.3 |
| 繊維農学 | 30 | 71 | 2.4 |

昨年比して倍率は低下している又応募人員も減少している。最近毎年倍率は低下して居り、紡織工学科は2倍以下になった。

以上の様な原因は何かと云う御意見を会員の方々から寄せられることを期待している。

本 会 記 事

信州大学一般教養統合問題について会合

1月19日本会顧問蒲生俊興、倉沢美徳林貞三の各氏および佐藤利一先生のご米会をえて母校に一般教養の認められた当時の理由、大学発足後常に統合は問題にされたが今日まで存続してきた経緯などにつき話しあい貴重な意見も得たが本会として現在次のような態度をとることに決定した。

①目下問題となっている母校の一般教養の統合問題に対して千曲会は現在のところ政治的に動くときでない。

②学部側で目下真剣に討議中なので一切を学校におまかせし学校側から何等かの希望要請があった場合には千曲会と地元側と協同して適切な運動に着手する。

尚席上学部長からこの問題は目下教官会議で検討中であり、千曲会や地元へ協力要請の必要がある場合には教官会議の了解を得てお願いするという挨拶があった。

なお当日でた意見は次の通りであった。

①現状維持(学部が一般教養をもつこと)を守ることが望ましい。

②できるだけ早く大学院(修士課程)を設置するような対策をたてる必要がある。

動 静 部 委 員 会 開 催

2月20日動静部委員会を開催した。出席者は関博夫理事、遠藤恒久理事外委員で次のとおり決定した。

①毎月第3週水曜日を動静部委員会開催日とする。

②各支会連絡所に会員動静の報告依頼は3月中旬に発送すること。

③年賀状により動静を把握することも必要とし各学科の先生(理事)にお願いして新しい勤務場所住所を把握することになった。

学 内 理 事 会 開 催

2月27日学内理事会を開催し次の事項を協議決定した。

○信州大学一般教養の統合問題について実状と経過報告会が3月5日学部において催されるので千曲会より萩原理事長和田普理事および土屋茂一郎評議員が出席することに決定した。

○3月10日挙行の第11回卒業証書授与式の祝詞について千曲会より副理事長母袋忠右衛門氏に新卒業生にはなむけのことばをお願いすることになった。

伊藤武男先生退職記念代(2月末現在)

- 3,000円 杓掛久雄, 奥 正巳
- 2,000円 大平敏彦
- 1,500円 佐藤春太郎, 浜村保治, 千葉春雄, 高橋 清
- 1,000円 三浦乾太郎, 清水 周, 阿久津伊平, 西川満佳
- 宮本治男
- 900円 石橋 博, 戸田正行, 窪田 潤
- 600円 長岡俊男, 山越一男, 母袋健一, 三石 昌
- 500円 降旗剛寛
- 300円 池田 勉, 小沢 丘, 小林要吉, 佐土 孝
- 戸崎近雄, 樋口榮四郎, 関口貞雄, 高沢弘明
- 小出幸長, 大滝忠長, 土屋 慎, 野上 聡
- 小池 渥, 若林忠之, 遠藤忠二, 西沢 孝
- 吉家榮二, 四茂野裕, 小林茂夫, 池田義信

皆 様 の ご 相 談 相 手

北 十 二 銀 行



オルガン
ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美

信 州 別 所 温 泉

(上田駅下車 電車 又はバス30分)

日 観 連 会 員
交 通 公 社 指 定
国 鉄 推 薦

和 泉 屋

TEL (塩田局) 30・102

火災復興資金募集

母校火災復興資金支会別募申金込納入調
「38.2.28現在」

母校火災復興資金募集については各位の多大なご協力によって2月末現在別記支会別申込納入調のとおり目標額の52.1%になりました。
会員各位の母校愛溢れる熱意に対し衷心より感謝申し上げます。未だ申し込みをされない方におかれましても募金要項ご賛同の上格別のご協力賜りますようお願い申し上げます。

募 金 要 項

募 金 目 標 額 5,800,000円
復興資金として
母校へ提供する金額 5,000,000円
拠 出 額 1口金1,000円 1口以上
申 込 期 限 昭和38年6月末

千曲会員各位

母校火災復興資金募集実行委員長

巢 山 喜 吉
社団法人千曲会理事長
荻 原 清 治

母校火災復興資金申込者氏名 (○印は完納)

- 北奥支会 2,000円 ○及川英雄「学蚕1」○小林利弘「蚕35」
1,000円 ○寺崎喜美「糸23」
- 茨城支会 2,000円 ○堀川 収「蚕20」
- 東京支会 1,000円 ○佐土 孝「学化4」○樋口榮四郎「学化4」
- 神奈川支会 3,000円 ○牧野 弘「糸11」
- 更 埴 支会 5,000円 ○大谷 勇「糸9」
3,000円 ○飯島正胤「蚕2」○金野敏保「糸12」
- 上小支会 2,000円 ○倉沢秀一「蚕30」
1,000円 ○近藤貞夫「蚕26」○外村吉高「蚕28」○清水猛「蚕31」○三輪雅嘉「農試」
- 安筑支会 3,000円 ○青木幸雄「蚕17」
1,000円 ○大原不二夫「糸35」○塚田光弘「学蚕4」
○芹沢鳴明「農1」○丸山宜重「農4」○尾崎行也「学化4」
- 静岡支会 1,000円 ○小泉 豊「蚕28」
- 近 畿 支会 1,000円 ○寺島英夫「学化10」
- 兵庫支会 3,000円 ○千葉達人「糸18」
2,000円 ○伊藤辰夫「紡27」○松崎恒雄「紡30」
1,000円 ○上野俊二「学蚕2」
- 山 陽 支会 4,000円 ○西本朝平「蚕15」
3,000円 ○渡辺健二「糸28」
1,000円 ○森高守成「紡26」
- 北九州支会 1,000円 ○早田充利「紡17」

火災復興資金申込後完納者氏名

- 30,000円 林 清市「糸19・諏訪」
- 20,000円 向井政弥「蚕10・宮城」
- 10,000円 蒲生俊興「蚕1・上小」荒井猛「糸12・北信」
伝田静夫「蚕21・上小」鈴木玄九「糸18・兵庫」
若林新一郎「糸10・近畿」
- 6,000円 香山清和「紡3・上小」石松博「糸24・山陽」
- 5,000円 宮城 博「蚕11・北信」土屋勲「糸12・愛知」
鈴木正悟「蚕21・三重」井上一郎「糸5・神奈川」
林秀 門「糸19・三丹」酒井淳夫「糸18・神奈川」
伊藤力三「蚕17・宮城」竹内孝三「蚕14・東京」
飯島貞雄「紡1・京滋」井沢喜三「蚕16・北信」
小林清志「糸17・三丹」曾山高祥「蚕4・安筑」
上野昌彦「学化2・宮崎」宮下謙「学紡4・東京」

| 支会名 | 募 金 申 込 | | 募 金 納 入 | | 募 金 目 標 額 | |
|-------|---------|-----------|---------|-------|-----------|-----------|
| | 人 員 | 金 額 | 人 員 | 金 額 | | |
| 北海道 | 4 | 7,000 | 25.0 | 4 | 6,000 | 28,000 |
| 北 奥 | 21 | 45,000 | 83.3 | 20 | 43,000 | 54,000 |
| 山 形 | 11 | 28,000 | 62.2 | 6 | 15,000 | 45,000 |
| 宮 城 | 24 | 68,000 | 138.8 | 24 | 68,000 | 49,000 |
| 福 島 | 27 | 49,700 | 46.0 | 26 | 47,700 | 108,000 |
| 茨 城 | 38 | 65,200 | 74.1 | 38 | 63,200 | 88,000 |
| 栃 木 | 14 | 45,000 | 86.5 | 12 | 23,000 | 52,000 |
| 群 馬 | 8 | 14,000 | 6.5 | 6 | 11,000 | 217,000 |
| 埼 玉 | 42 | 60,400 | 33.9 | 41 | 59,400 | 178,000 |
| 千 葉 | 18 | 32,000 | 50.8 | 15 | 27,500 | 63,000 |
| 東 京 | 178 | 283,500 | 47.6 | 165 | 262,500 | 595,000 |
| 神奈川 | 70 | 158,000 | 82.3 | 63 | 136,000 | 192,000 |
| 山 梨 | 17 | 21,000 | 33.3 | 16 | 20,000 | 63,000 |
| 越 佐 | 10 | 15,000 | 17.2 | 10 | 15,000 | 87,000 |
| 富 山 | 20 | 32,000 | 45.7 | 19 | 30,000 | 70,000 |
| 石 川 | 11 | 22,000 | 66.7 | 10 | 19,000 | 33,000 |
| 福 井 | 5 | 11,000 | 39.3 | 5 | 11,000 | 28,000 |
| 北佐久 | 9 | 21,000 | 14.3 | 7 | 15,000 | 147,000 |
| 南佐久 | 5 | 8,000 | 15.7 | 5 | 8,000 | 51,000 |
| 上 小 | 122 | 262,600 | 45.2 | 103 | 210,000 | 581,000 |
| 学 内 | 49 | 411,000 | 100.0 | 47 | 174,305 | 411,000 |
| 旧職員 | 4 | 13,000 | | 4 | 13,000 | |
| 更 埴 | 12 | 31,000 | 19.0 | 11 | 28,000 | 163,000 |
| 北 信 | 32 | 77,000 | 31.7 | 31 | 67,000 | 243,000 |
| 飯 高 | 2 | 2,000 | 2.4 | 2 | 2,000 | 84,000 |
| 安 筑 | 77 | 133,000 | 73.9 | 71 | 119,000 | 180,000 |
| 諏 訪 | 26 | 112,000 | 72.7 | 8 | 51,000 | 154,000 |
| 竜 川 | 15 | 25,000 | 28.1 | 7 | 8,000 | 89,000 |
| 岐 阜 | 16 | 50,000 | 43.9 | 15 | 49,000 | 114,000 |
| 静 岡 | 18 | 32,000 | 36.8 | 18 | 32,000 | 87,000 |
| 愛 知 | 110 | 236,000 | 70.7 | 107 | 224,200 | 334,000 |
| 三 重 | 50 | 105,000 | 100.0 | 49 | 103,000 | 105,000 |
| 近 畿 | 26 | 47,000 | 19.8 | 24 | 45,000 | 238,000 |
| 京 滋 | 50 | 101,000 | 107.4 | 44 | 87,000 | 94,000 |
| 兵 庫 | 40 | 92,000 | 80.0 | 39 | 91,000 | 115,000 |
| 三 丹 | 32 | 66,000 | 78.6 | 24 | 47,000 | 84,000 |
| 山 陽 | 38 | 94,000 | 49.7 | 37 | 89,000 | 189,000 |
| 山 陰 | 10 | 10,000 | 22.2 | 10 | 7,000 | 45,000 |
| 徳 島 | 13 | 26,000 | 86.7 | 13 | 26,000 | 30,000 |
| 高 知 | 9 | 9,000 | 75.0 | 9 | 9,000 | 12,000 |
| 愛 媛 | 9 | 27,000 | 44.6 | 8 | 24,000 | 56,000 |
| 香 川 | 2 | 4,000 | 28.6 | 1 | 1,000 | 14,000 |
| 北九州 | 13 | 22,000 | 17.7 | 12 | 19,000 | 124,000 |
| 熊 本 | 11 | 18,000 | 40.9 | 11 | 18,000 | 44,000 |
| 宮 崎 | 5 | 13,000 | 50.0 | 5 | 13,000 | 26,000 |
| 鹿 児 島 | 9 | 17,000 | 56.7 | 9 | 16,000 | 30,000 |
| 合 計 | 1,332 | 3,021,400 | 52.1 | 1,211 | 2,452,805 | 5,800,000 |

会 員 動 静

西川 満佳 学化10 近 畿 帝人株式会社(大阪市西区江
戸堀1の53)(住)尼崎市塚
口梅町帝人第二塚口荘
矢崎 豊 化 1 山 梨 山梨県甲府第二高校(甲府市)
竹森 克巳 化 1 愛 媛 富士紡績(株)化学研究所(愛
媛県周桑郡壬生川町)
高岸 健次 化 1 静 岡 東洋レーヨン(株)三島工場
(住)静岡県三島市鐵坂鐵坂奈
江口晴晴雄 化 1 近 畿 日本接着剤工業(株)(住)大阪
府寝屋川区大字秦豊野住宅34
中村 克巳 化 1 東 京 三菱レイヨン本社課長(住)東
京都新宿区牛込南榎町五座住
協会アパート 560
山本 周三 紡 23 在 外 呉羽紡績(株)サルパドル海外
連絡室(サンサルパドル)
藤井富美男 紡 8 東 京 日東紡産業株式会社(東京都
中央区日本橋橋町八)
碓氷 茂 紡 3 東 京 伏見タイプ社(東京都北多摩
郡保谷町上保谷6921)
電(0421)6-7429
田中 実 学糸1 北 信 長野県庁農政課(住)長野市
上千歳町1.121
大木 定雄 糸 19 東 京 農林省蚕糸試験場(住)東京
都南多摩郡日野町1852
小林 清志 糸 17 三 丹 郡是製糸(株)生糸事業部取
締役(住)綾部市上野町上野
笠原 重亀 糸 12 福 島 笠原工業(株)須賀川工場合
成部長(須賀川市上八垣八)
梅沢萬治郎 糸 7 神奈川 横浜生糸取引所(住)東京都
大田区安方町150

荒井 漸 蚕 31 三 丹 郡是製糸KK綾部蚕種製造所
現業課長(住)京都府綾部市
青野町
把田 英司 蚕 36 三 丹 郡是製糸株式会社開発研究所
京都府綾部市青野町
小松 文雄 化 8 三 丹 同上 同上
榎村 晃一 学化3 東 京 大塚製靴KK(住)川崎市上小
田中1553 丸寿荘14号室
安藤 良人 農 1 安 筑 勤務前の通り(住)長野県東筑
摩郡波田村6486

会費を納めて下さい

本会活動が円滑活潑に出来ますよう会費を納めて下さい
会費は年額300円です。支会を通して納入の場合は均を交
付金として支会活動通信費に還元いたします。
入会後40回納入者は規定により以降会費は免除されます
現在会費通算40回完納者は次の通りです。
高橋犯一「蚕8」「栃木」、飯島正胤「蚕2」「更埴」
吉野健吉「蚕4」「愛知」、小中 潔「蚕10」「愛知」
服部虎雄「紡2」「愛知」、大塚重蔵「糸8」「兵庫」
大沢宝市「蚕16」「千葉」

編集室より

3月は卒業式つづいて入学試験、或は学会と学園ではあ
わただししい月である。

恒例の卒業式は3月10日挙行、109名の卒業生が社会人
として大きな希望を抱いて思い出の学園から業界に就職し
ます。新入会員の健闘を期待し、会員諸兄より指導鞭撻下
さるようお願いいたします。

編集委員 小林尚一、香山清和、大屋正尚、古平福紀、
窪田衛二、大工原建、滝沢達夫、小林 勝、白井要範、



皆様の百貨店

上田・中央



日本工業規格表示許可工場

日本石綿紡織株式会社

本社 長野市三輪本郷
TEL (2)6275(3)0093

信州鹿教湯温泉

日観連会員 交通公社協定 文珠荘

TEL (西内) 35

千曲会員の宿
上田市外別所温泉

大展望風呂

上 松 屋

TEL 塩田 9

倉沢秀一 (蚕30卒)